

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
全体に関するもの			
1	北九州市内で赤ちゃんから高齢者まで、様々な食育の取組がされていることがよくわかりました。豊かな食が次の世代まで続いていくよう、みんなが生き生きと健康に過ごしていけるよう、食育を地域に広めていきたいと思えます。 「食べかたは、生きかただ。」のスローガンは改めて食について考えさせられる言葉だと思います。 食に携わる人に感謝したいと感じました。	「基本理念」「スローガン」を周知し、食育関係者と連携・協働して食育の推進に取り組んでまいります。	①
2	全体的に「市民ひとり一人」という表現がよく出てきますが、減塩にしても個人より環境(企業努力)で対策をとろうと語っています。市の計画なので、もっと市としてどうありたのか、そこを投げ出して一人ひとりの～を強調しすぎではないかと思えます。	食育は一人ひとりの望ましい食の実践を育むものです。 食育への関心や意識が低下する中、食への理解と意識を高め、生涯を通じた健康づくりや持続可能な食について一人ひとりが食への理解と意識を高められるよう、食育関係者の皆様と連携・協働しながら具体的な取組を推進してまいります。 減塩については、引き続き、きたきゅう健康づくり応援店や食品取扱事業者と連携・協働して食環境整備を推進します。	④
第2章 食をめぐる現状と課題			
3	「小人数」→「少人数」ではないでしょうか。	人数が少ないことを示すものとして、「小人数」(こにんずう)を使用しましたが、一般的にイメージしやすい少人数(しょうにんずう)に修正します。	② 5 頁
4	5ページの健康寿命の標記について、P37の説明が正しいと思えます。	「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」に修正します。	② 5 頁
5	朝食の調査結果において、前回結果との比較も記載してあると理解しやすいと思えました。	23ページに第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況を掲載しています。朝食の摂取の状況については、ベースライン値として平成28年度と平成29年度に実施した調査結果を掲載しております。	①
6	10ページの(3)2行目「主食(省略)、主菜(省略)、副菜(省略)の3つがそろった食事が1日2回以上あるのは週に何日あるか聞いたところ～」とすると読みやすいのではないかと思います。 (3)4行目「『ほとんどない』は」→「『ほとんどない』も」 (3)5行目「27.3%で」→「27.3%」と全国の調査と比較して近く	2行目について、他ページ及び調査の設問から、「主食(省略)、主菜(省略)、副菜(省略)を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日あるか聞いたところ～」に修正します。 また、4行目について「『ほとんどない』も」に修正します。 5行目について、「27.3%で、全国調査と変わらないものの、」に修正します。	② 10 頁

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
7	18ページ(11)環境への配慮において、前回の結果との比較があると今回の結果がより分かりやすいのではないかと思います。	「食品を捨てること(生ごみ)を減らすためにやっていることがある者の割合」は、23ページの「第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況」にベースライン値として平成29年度に実施した調査結果を掲載しております。	①
8	災害に備えた食品備蓄については「家庭での備蓄」の例として、高齢者や乳幼児、アレルギーをお持ちの方、慢性疾患がある方など、配慮が必要な方々やその家族に向けての記述があればいいように思います。	高齢者、乳幼児、慢性疾患の方、介護を要する方、食物アレルギーの方などの食品の備蓄についての記述を追加します。	② 22 頁
9	食塩の過剰摂取の囲みの中の説明が塩分の過剰となっています。	「食塩の過剰摂取」へ修正します。	② 24 頁
10	<p>最近、毎年のように災害が起こっています。今年も新年早々の地震により多くの人命が失われ、家を失い、避難所での生活を余儀なくされています。</p> <p>北九州市は自然災害が少ない地域とはいえ、だからこそ、一人ひとりの災害時の備えについて十分に準備ができていますか心配です。自治体からの広報が行き届いているとは思いませんし、届いていてもいざというときに実践できるかが不安です。災害に備え、何をどのくらい用意していればいいのか、特に食料などについては、個人では何を用意しておくべきか、すべての市民が理解できるよう、教育の場や職場、地域等で啓発をお願いしたい。チェックリストなどであると準備しやすいと思います。</p> <p>地域での防災訓練では、誰一人取り残さないで避難させることができるように、住民全員が訓練に参加するよう呼びかけをしていく必要があると思います。</p> <p>また、高齢者など、定期的な服薬や食事の調整を必要とする高齢者も多いと思う。避難所では個別対応は難しいと思うが、どのような対応になるのだろうか。</p>	<p>本市では、地域防災計画にて、災害の予防、災害応急対策及び災害復旧・復興について定めており、防災に関わる業務を体系立て、万全を期すよう、総合的に取組んでいます。</p> <p>市の公的備蓄として避難者のための非常食及び飲料水を一定量整備していますが、公的備蓄には限界があり、一人ひとりに必要な物資を市で全て備蓄することは困難であることから、基本的には個人で災害時に必要となるものを備えていただく必要があります。</p> <p>計画書にトピックスとして災害時にご家庭で備えておいていただきたい備蓄の例を掲載しておりますが、詳しくは、北九州市防災ガイドブックをはじめ、ホームページ等に掲載するほか、出前講演にてお知らせしております。引き続き様々な機会を捉え、周知、啓発に努めます。</p> <p>なお、避難所では、医師や保健師、栄養士等の専門職による健康相談等をはじめとした保健医療福祉活動を速やかに実施し、避難生活に伴う二次健康被害の予防に取り組みます。</p>	③
第3章 基本理念と計画の体系			
11	28ページの「目指すべき市民の姿」の項目において、「3 薄味を心がける」とありますが、少し内容は複雑になるかもしれませんが「だし」についても記載した方が日本の伝統的食文化にも触れやすく、減塩にもつなげやすいのではないかと思います。	36ページの「毎日減塩 マイナス2g!」のトピックス内で「減塩のコツ」として「だし」について記載しています。	③
12	「食育の推進のための取組の成果を客観的に判断するための数値目標」の表ですが、現状値から目標値までどれくらいかを示すともっと理解しやすいのではないかと感じました。	取組の成果については、現状値からの増減値だけではなく、ベースラインからの数値変化の割合(増減率)で評価することとしています。 なお、評価方法については、23ページに掲載しています。	④

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
13	表紙の絵は、北九州市の形なのですね。スローガンの説明のところに、「愛そう」とあるのでハートマークに近い感じがしました。 北九州市は海山に囲まれ、食材が豊でおいしい料理もたくさんあります。このマークとともに食育が北九州市内に広がっていけばと感じました。	「基本理念」「スローガン」を周知し、食育関係者と連携・協働して食育の推進に取り組んでまいります。	①
第4章 食育推進の取り組み			
I 学びと実践による健康につながる生活習慣の確立			
(1) ライフステージに応じた多様な場での食育の推進			
14	朝食の欠食について、市として課題に対する対策が欲しいものです。 朝食の欠食についてコロナ禍で減ると思いましたが、増えているのはどうしてでしょうか。学生はオンライン事業で、家で食事を作る機会が増えてバランスをとれた食事をする人が増えたと感じます。また、中学校欠食がどうして増えたのでしょうか。時代背景も考えながら推測でもよいので欲しいところです。	朝食の欠食については、生活リズムの乱れが関連しているのではないかと推察されます。 朝食を食べることの必要性について、引き続き、保育所や学校等を通じた取り組みや地域での講座、SNS 等様々な機会・媒体を通じて、引き続き啓発を行ってまいります。	③
15	高校生へのアプローチがあまりないので具体策があれば良いと感じた。成長期であり思春期の高校生にとって栄養を満たす必要性についてや、過度なダイエットによる摂食障害などの危険性などについて学ぶ必要があると感じるため、高校に管理栄養士を配置するなど具体策がないと継続的な食育を行えないのではないかと感じた。高校生の時期の知識不足は成人期の食事の栄養不良や不適切な食行動に繋がってしまうため、もっと力を入れる必要があると思う。	将来を担う若い世代への食育は重要だと考えています。 高等学校の家庭科での学習や、「高校生への食育推進事業」など学校を通じた取り組みの他、ショート動画を通じた啓発などホームページや SNS 等を通じて若い世代への食育を推進、に努めます。 また、地域での食を通じた健康づくりの実践活動を実施している、食生活改善推進員の育成・活動を支援や食品取扱事業者等と連携した食環境の整備等を通じて、若い世代の食育の実践活動を図ります。	③
16	若い世代でバランスに配慮した食事ができていないようになっていましたが大学生などは一人暮らし等で金銭的な面で食事が出来ていない可能性もあるため、朝食の販売やバランスの取れた学食提供など大学と連携した取り組みもあったらいいと感じました。また、男性の食に関する関心の低さをとても感じたため、男性をターゲットとする取り組みを全ての世代でもっと増やした方がいいと思いました。	社員食堂等の給食施設で提供される食事は利用者の日常生活の環境となるため、利用者に適した栄養補給が望まれます。施設管理者や調理従事者等への研修等を通じて栄養管理の質の向上を図るとともに、市ホームページにダウンロード可能な食育啓発資料を掲載するなど、社員食堂等を通じた食育に努めます。 また、大学等と連携し、引き続き、若い世代の食育について、普及・啓発を図ってまいります。	③

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
(2) 健康寿命の延伸につながる食育の推進			
17	欠食と肥満のところで、夜遅い食事と肥満のリスクについてエビデンスがありますか。	いくつかの論文等により、夜遅い食事と肥満の関係が示唆されています。肥満については、遺伝や身体活動等様々な要因によるところであることから、食物の摂取によるエネルギー消費の視点でわかりやすく文章を変更いたします。	② 35 頁
II 次世代へつなぐ社会環境の整備			
(3) 食と環境の調和の推進			
18	次世代へつなぐ社会環境の整備の「②農林漁業体験の推進と生産者との交流促進」についてですが、新型コロナウイルスもかなり落ち着いてきた今、農林漁業を体験できる機会を増やして食育に繋がられると良いと思ったため、賛同します。	収穫体験など、体験型の食育に取り組んでまいります。	①
19	できるだけ、国産の食材を購入しようと考えているが物価の高騰の影響で困難になりつつある。規格外の地元の野菜なども安価で流通するようになると地産地消は進むのではないかと。	地産地消については、地元産農林水産物が購入できる直売所などを紹介したガイドマップの配布や、市及び「地元いちばん」ホームページで情報提供を行うほか、各種イベントを通じて市内農林水産物のPRを図っていきます。	③
20	SNSなどを通じた市民農園の情報提供について、具体的にされていることはありますか。また、どこの部署が誰に発信していますか。	産業経済局農林課では、「観光農園・市民農園・直売所・ガイドマップ」を作成し、区役所や市民センターでの配布の他、市及び「地元いちばん」のホームページなどで市民を対象に情報提供を行っています。 また、福岡県ホームページ等においても市民農園の空き区画情報等をお知らせしています。	⑤
21	回転ずし店の客やコンビニエンスストアでの店員などによる不適切行動が SNS にアップされるが、一人一人が食を大切に考えて行動することが必要であると思う。 課題として挙げられている、「食への理解と感謝の意識の醸成」と道徳心が必要。	ご指摘のとおり、食料の生産から消費等に至るまでの食の循環は、多くの人々の様々な活動にささえられており、そのことへの感謝の念や理解を深めることが大切です。農林漁業体験等を通じて食への理解と感謝の意識の醸成を図ります。	①
22	お正月のおせち料理について、特に若い世代では、食べる予定のない人も増えてきているらしい。 フードロスやフードマイレージを削減し、おせちの一品一品に込められた意味を次の世代に伝えていくためには、料理教室や郷土のおせちを伝える教室など必要ではないか。 行事食なども「健康に悪い」イメージがある。健康に配慮した行事食もあると思うが、昔からの味の伝承も必要と思う。実際にどのように食の伝承に取り組んでいったらいいのか。 「北九州市食の伝承料理」コンテストなどを開催し、上位になった料理を地域から広めていきたいと思うが、北九州市の食の魅力をどのように考えて発信していけばいいのか。具体的に教えてほしい。	伝統的な食文化について子どもが早い段階から興味・関心をもって学ぶことができるよう、保育所(園)や学校等において、日本各地の郷土料理や行事食を給食に取り入れる他、給食の時間や給食だより等を通じてその歴史やゆかり、食材についての啓発を図ってまいります。 また、市民センターを拠点とした健康づくり事業や食生活改善推進員の養成・活動支援を通じて地域で受け継がれる食の実態に即した、住民主体の食生活改善に係る実践的活動を支援します。併せて、北九州市の食の魅力や「何をどのように食べたらよいか」等のわかりやすい食育情報をホームページや SNS 等を通じて発信してまいります。	③

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
23	<p>国において、平成29年の「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」への改正の際に、第12条の生活文化分野の中に「食文化」が付け加えられました。</p> <p>「文化芸術基本法」の目的は、「心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現」であり、地方自治体も、「国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有する」と規定されています。</p> <p>本計画において、「食文化」の語は、随所に出てきます。</p> <p>また、25ページの基本理念のところには、「健康づくりの視点と社会、環境、文化の重要な視点、SDGsの考え方を踏まえて」と書かれています。</p> <p>本計画で「食文化」にも言及するのであれば、文化芸術基本法に「食文化」が含まれたこと、さらに、例えば、本市発祥の角打ち文化や、寿司料理人が観光大使に任命されたり、今年度の市民文化賞を受賞されたりしていること、「北九州技の達人」に調理師など多くの食文化関係者が認定されていること、なども含め、「食文化」について幅広く言及し(個々具体的に詳しく記載すべきという趣旨ではありません。あるいはトピックでもいいと思います。)、局の垣根を超えて、食育の取組みを広げていかれると良いと思います。(なお、29ページの役割のところでも、「食文化の伝承」は一部に限られるものではないと思いますし、48ページ以降の推進事業の中にも、もう少し「食文化」があっても良いと思います。)</p>	<p>地域で受け継がれてきた食文化は自然風土と調和した先人の生きる知恵と経験の賜物であり、未来に継承すべき伝統文化の一つです。北九州の地域に伝わる郷土料理の他、角打ちなどの文化、焼うどんや焼きカレーなどの北九州市発祥といわれている料理をトピックスで紹介をさせていただいております。食文化への関心を高め、様々な機会を捉えて、日本の誇れる食文化を未来につなげていけるよう、努めてまいります。</p>	② 43 頁
(4) 食の安全・安心の推進			
24	<p>ふるさと納税返礼品の産地偽装などが記憶に新しい。</p> <p>そもそも、食品に表示してある表示は情報が多くて字が小さく、一つ一つ確認して購入するのは難しい。一部表示のない食品もあるし、偽装など真実なのかと思うところもある。外食などでは、どのような材料を使用して料理を作っているのかわからない。まずは、すべての提供される食材や料理について、命や健康に直結する情報をわかりやすく表示される社会になってほしいと思う。</p>	<p>毎年度策定する「北九州市食品衛生監視指導計画」に基づき、九州農政局や消費者庁、本市の産業経済部局等とも連携し、食品表示の適正化を図るべく、食品関連事業者に対しての監視指導を行っているところです。</p> <p>食の安全安心確保のため、今後も引き続き監視指導に努めてまいります。</p>	③
(5) 社会全体で食育を推進する体制の整備			
25	<p>きたきゅう健康づくり応援店は、せっかくなのでもう少し市民に知ってもらおうようにしてほしい。</p>	<p>引続き、様々な機会を活用して食育情報の発信に努めてまいります。</p>	③

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
26	例えば生協などの団体に「出前講座」をお知らせし、市民に利用してもらうようにしてほしい。市民5人以上集まれば講師を依頼できるような仕組みは出来ないか。 市民センターや第三セクターなどの施設、保健所などを利用して、身近で気軽に立ち寄れるような市民に寄り添ったしくみにしてほしい。市民センターがいつも同じ顔ぶれで行きにくい。	北九州市在住の市民グループや団体など市民の皆様がお集まりになるところに栄養士を派遣する「地域食育講座」を実施しています。また、区役所等で健康づくりや食生活に関する相談を受け付けております。今後も食に関する正しい知識の普及と情報及び意見交換を図ります。	③
27	子ども食堂へ地域の方が来られるようだが、本来の意味は困っている方のためではなかったのか。これでは本当に困っている方が来れないのではないか。 NGO、NPO など沢山出来ているようなので、実態を調査してほしい。	たしかに、マスコミ等で困っている方のため(貧困対策等)として取り上げられることが多くありますが、実際には法律等で明確に定義されているものではなく、実施目的も貧困対策等に限らず、子どもの居場所づくりや多世代交流など、様々な目的で実施できるものとなっています。 また、貧困対策等を前面に出すと、「子ども食堂に行く＝貧困等家庭」というイメージを持たれてしまい、かえって困っている方々が利用しづらくなってしまったため、困っている方も来やすいように、あえて地域の方が来られるようにしている子ども食堂も多くあります。 北九州市内の子ども食堂の多くは「子ども食堂ネットワーク北九州」に加入しており、市も同団体を通じて各子ども食堂の実施状況等の確認を行っています。	⑤
28	「子ども食堂」について、地域でコミュニケーションのために行うことは大事なので、誰でも生活全般のことや学校の事等の相談の場となればよいと思う。無料食堂も必要。	ご指摘のとおり、子ども食堂については、単に食事を提供する場だけではなく、地域での子どもたちや大人たちとのコミュニケーションの場であったり、学習支援を行う場、子どもたちや保護者の相談対応や支援を行う場、などとしての役割も持つようになってきています。 北九州市の子ども食堂については、各民間団体がボランティアとして実施しているため、一律に上記のような様々な取組の実施を求めることは難しいですが、上記のような取組が多くの子どもの食堂に広がるよう、普及啓発等に努めてまいります。	③
Ⅲ 様々な機会を活用しての食育情報の発信			
29	栄養士さんの元気レシピについて、市のホームページやSNSで紹介・とありますが一般の方は目にする機会がありません。もう少し身近にあればいいと思います。	各区役所保健福祉課に掲示、配布しています。また、より広く周知を行うために、スーパー等の食品取扱事業者等との食環境整備の中で目にする機会が増えるよう取り組みを進めてまいります。	③
30	市政だよりを見たことがない人もいると思うことから、食育情報の発信などについて、テレビで流してもいいのではないかと。	引続き、様々な機会を活用して食育情報の発信に努めてまいります。	③

「第四次北九州市食育推進計画」(素案)に対する意見と市の考え方

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 今後の参考とするもの
- ④ 追加・修正なし
- ⑤ その他

No.	意見の概要	市の考え方	反映結果
その他			
31	構成員が健康づくりプランも食育推進計画も北九州市立大学となっています。食育なので、食物栄養学科のある大学の学生を起用するのがどうでしょうか。	平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査の結果、食育を推進する上で重要なことについて、「栄養バランスや食事の大切さについて教え、学ぶこと」と回答した人の割合が一番多く、65.1%でした。「食育に関心のある」と回答した人の割合も低下していることから、無関心層の食行動の変容へ向け、栄養の専門的知識がない一般の学生の視点から学生の実態と効果的なアプローチについて意見徴集をさせていただければと考え、北九州市立大学の学生を構成員とさせていただきます。懇話会への参加を通じて、食育について友人や家族、地域へと広めていただければと思っています。	⑤
32	食べた物で身体は出来ている。健康な身体づくりをするには毎日の食をいかに大切に考えていくか。子どもの頃からの食育は大切ですが、栄養士さんのご指導がすべて正しいとは限りません。しっかりと正しい食について学んでほしい。減塩をすすめたり、牛乳をすすめたりしている栄養学は見直すべき。そして、農薬、食品添加物の害を学び、できる限り安全な食品を選んだりテラシーを身につけて生き抜いていかねばなりません。具合が悪いとき薬ばかりに頼らず食で自然治癒力を高める術も身につけていくことも、災害時に医療を受けられない時などに生き抜くためにも必要です。これからの時代、昔からの知恵と現代の新しい知見とをバランスよく学び実践していかないと、間違った情報に流されてしまう可能性もあります。常に学び直しを繰り返すことをしないとこれからの時代を健康な身体で生き抜くのは厳しいと思います。	栄養は、人が生涯を通じてよく生きるための基盤であり、活力ある持続可能な社会を実現する上での必須要素です。日本人の食事摂取基準や各疾患ガイドラインなどを参考に、引き続き科学的根拠に基づいた食育を推進することとし、各種講座等を通じて健康づくりについての正しい知識の普及を図ります。 また、食品を安全に喫食できるよう、国が農薬の残留基準や食品添加物の使用基準を定めています。基準値を超過した食品が流通することがないように、引き続き監視指導を行うとともに、食品の安全・安心に関する普及・啓発の充実を図ります。	③
33	食を通じた地域での実践活動を通し、食育が地域に根づくような活動を行っていますが、会員の高齢化により、活動が負担になってきています。 若手の人材育成を含め、地域の方と一緒にふれあい昼食交流会などの食育活動に取り組んでいきたいと思っています。災害時には炊き出しに行ったりもしています。できるだけボランティアに金銭的負担がなく、楽しく活動できるように地域ボランティアの活動の推進をしてほしいと思います。	食生活改善推進員の方々には、現在も様々な活動を展開していただいているところです。食育を推進するためには、地域に根ざした継続的な取り組みが不可欠であり、今後さらに取り組みが進むよう、本市としても人材の育成、食生活改善推進員の活動の支援に力を入れていきます。	③